

第74回北海道高文連石狩支部演劇発表大会優秀賞作品

北海道新篠津高等養護学校演劇部

第8回卒業自主公演

私たちの毎日
私たちのイマ、ココ
なにげない
くだらない
かけがえのない
あたりまえの
イマ、ココ

翻案「わが星」(作 柴 幸男)
作 山田 勇氣
音楽 久井 あや

日時 2025年 3月8日(土) 15:00 開演 (30分前開場)

3月9日(日) 13:00 開演 (30分前開場)

場所 まなみーる(岩見沢市民会館・文化センター) 中ホール

チケット 一般 500円

(療育手帳お持ちの方、高校生以下、新篠津村民の方は無料)

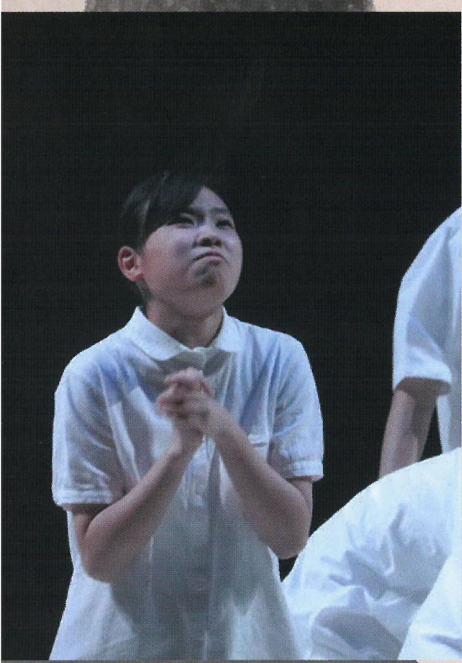


わたし達も何億年たったら、エネルギーになるのかな？

大人になることを迫られたティーンエイジャーが抱える心のざわめきは、見る者の共感を呼び、ただ、物語はそこで終わらない。地球が育む壮大な生命のうねりの中に身を置いた主人公の素直さに、私たちは力をもらうのである。
創部以来、宮沢賢治の作品と共に歩んだ新篠津高等養護学校演劇部が、初めて宮沢文学と離れて挑戦した意欲作。演じる生徒の思いが詰まった台詞が光る。

わたし、進まなきゃダメかな？

ソラは新篠津高等養護学校に通う18歳。気の置けない友人たちと過ごす寄宿舎や学校の生活に不満はない。にぎやかに過ぎていく何気ない毎日だったが、進路決定に向けた実習を前に、ふと浮かんだひとつの疑問…。
「イマココで、みんなと話してることも忘れちゃうのかな」
進路に向けて頑張ってきたが、それがより現実に近いイマ、気づけば不安に変わっていた。
「一緒に石炭になりましょう！」後輩の一言に、気持ちを前に進めるソラだった。



コロナ禍、第45回岸田国土賞を受賞した「わが星」の動画を観て、人間の一生の尊さと儚さ、そして途方もない時の流れの中で確実の一つ一つの命が星のように瞬いて、つながっている……。そんな壮大な演劇表現に圧倒されました。
そして2024年。今年は目の前の生徒たちのなにげない一日に目を向け、生徒たちが実際に日常で話した言葉を集め、つなぐところから創作をはじめました。彼らのなんでもない、あたりまえの「イマ、ココ」をつないだら、いつの間にか一つの作品になっていた。そんな感じです。
あたりまえの一日がみんなにあたりまえにあってほしいという願い。初めて宮沢賢治作品とは離れましたが、私の中では宮沢賢治のいう「ほんとうの幸い」にしっかりとつながっています。
この作品が皆様、一人一人の大切な「イマ、ココ」とつながることができたら幸いです。

脚本・演出 山田 勇氣

岩見沢市民会館・文化センターまなみーる・中ホール

〒068-0029 岩見沢市9条西4丁目1番地1
☎0126-22-4233

駐車場に限りがあります。お早めにご来場ください。

【チケット・お問い合わせ】

新篠津高等養護学校演劇部
TEL 0126-58-3280
FAX 0126-58-3281
顧問 山田 勇氣



チケットお申し込みフォーム

最新情報は
こちらから

Instagram



Twitter



Facebook



発行 北海道新篠津高等養護学校演劇部後援会